題林愚抄第一　春部一

立春　同　金葉　心僻抄云立春をよめる歌いかゝ

春きぬと人はいへどもうぐひすの　山ゐの氷もいまだとけなくに　修理大夫経

同　新古　春立つ日よめる

春たつとかすみもあへずうぐひすの　なくねにしるき山ざとの雪　春宮大夫公

同　新古　春雑歌

春たつと人はいへどもうぐひすの　なくねぞ雪の下にきこゆる　後京

同　新勅　題しらず

春たつと人はいへどもうぐひすの　なくねぞ雪の下にきこゆる　同

同　新勅　題しらず

あさぼらけありあけの月と見るまでに　吉野の里にふれる白雪　後徳大寺左大臣

同　續後　春歌

春たつと人はいへどもうぐひすの　なくねぞ雪の下にきこゆる　後鳥羽院

同　玉葉　春歌

春たつと人はいへどもうぐひすの　なくねぞ雪の下にきこゆる　同

同　續古　春歌

春たつと人はいへどもうぐひすの　なくねぞ雪の下にきこゆる　後鳥羽院

同　新勅　題しらず

春たつと人はいへどもうぐひすの　なくねぞ雪の下にきこゆる　後京

同　新後　春歌

春たつと人はいへどもうぐひすの　なくねぞ雪の下にきこゆる　後鳥羽院

同　新後　春歌